



仁誠会通信

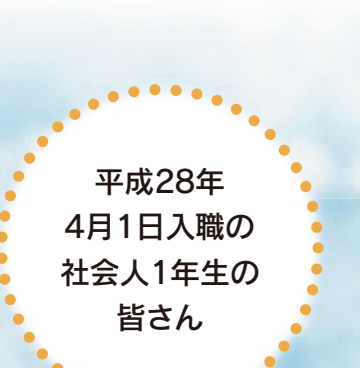
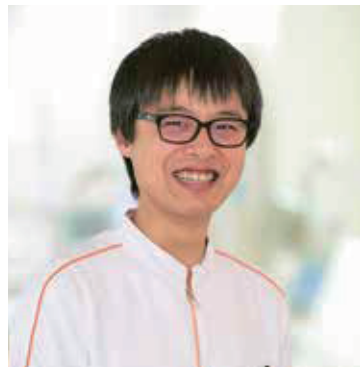
心ひとつ



やさしく
やわらかく
あたたかく



第17号
2016.7



平成28年
4月1日入職の
社会人1年生の
皆さん

目次

2-3 「熊本地震」から～心ひとつ～

4-5 災害対策 クリニック各部署から

6-7 「命守るお口のケア」

介護各部署から 震災を体験して

8 地域の元気をサポートします

「今日より明日」と 前に進んでいこう

上田 勝利さん(仁誠会クリニックながみね)

私は透析を行うようになり1年になります。食事のリン、カリウムについては少し分かってきましたが、水分の摂り方についてはまだまだ勉強中です。

今回の地震ですが、2度の地震は前触れもなく突然来ました。携帯電話の警告音、食器等の割れる音が響き渡りました。突き上げるような激しい揺れが続く、急いで布団から這い出ました。震度7を観測した事を聞き揺れの大きさを悟り、その夜は恐ろしくてソファーに寝ましたが、再び物凄い揺れが襲い、慌ててテーブルの下に隠れました。長男が階段を転げるように降りてきて、「はよ外に出るばい」の声に急いで、グランメッセに行き、そのまま避難生活の日々を送ることとなりました。駐車場は避難されて来た方の車ですぐに一杯になり、昼は後片付けで、夜は車に戻り、車中泊が2週間ほど続いたが、ようやく通常の生活を確保する事が出来ました。

今回の避難生活の中で支援物資の有りがたさ、ボランティアを率先して行う、その人たちの行動力にとても感動しました。私たち家族もその心に負けないように、「今日より明日」と一歩ずつ前に進んで行こうと思っています。

できれば家に帰って 元の生活をしたい

木寺 三夫さん(仁誠会クリニック新屋敷)

どんな被害を受けましたか？

自宅は御船町。
建物の崩壊は免れたが道路や地面に亀裂が入り、危険で立ち入り禁止となっている。
今は、大江の娘のところに避難しているため嘉島クリニックから一時的に新屋敷に転院している。

地震直後はどうしていましたか？透析は？

当日は、外に出て夜を明かした。
透析は、病院から特に連絡はなく、とりあえず病院へ行ってみた。
水道がでず、1回は、玉名の病院まで行って3時間透析をしてもらった。

今の気持ちと今後の希望は？

今も不安。
時々自宅へ帰って片付けなどしているが、建て替える余裕もなく、どうすればいいのか先が見えない状態。
退職の時に建てた愛着のある家なので、できれば家に帰って元の生活をしたいと思う。(文責 斉藤)

みんなの好意に助けられて

佐藤 哲矢さん(仁誠会クリニック光の森)

グラグラッときた、とっさに身体を右に回転させてベッドから転がり落ちました。経験したことのない大きな揺れに生きた心地がしませんでした。すぐにチャイムが鳴って安否の確認をされ、数日後、瓦の落ちた棟に見かねたご近所さんがブルーシートを被せてくれました。それからは家内は給水の列に並び、カセットコンロで煮炊きをする日が2週間あまり続くことになった次第です。

透析が3時間の週に2回と聞いて、ただならぬ事態だと初めて気がついたわけで、阪神・淡路大震災のときの教訓「3日間は自力で生き延びる」を思いだしてカリウム・ナトリウム・水分の制限と十分なカロリー摂取のきびしい食事管理で短時間の透析を乗り切りました。

今回、普段交流のなかった家内の友人や知人、近所の方の好意に助けられて、未曾有の災害をなんとか乗り越えることができました。



本当に主人に感謝！

木村 真由美さん(仁誠会クリニック黒髪)

透析歴36年目になりました。今回の熊本震災を思い出すと今でも涙が出ます。

本震の時は自宅で寝ていました。地震で玄関は歪み、すぐには逃げる事が出来ず、家の裏の窓からなんとか逃げる事が出来ました。逃げる時には転倒し、左足は腫れ上がり、右手は骨折し、死を予感しました。逃げた後に救急車を呼ぶにも家の周りは液状化現象で通行できず、主人の力を借りてやっとの思いで消防署まで行くことができ、無事済生会までたどり着きました。本当に主人に大変感謝しています。

その後は3日間済生会で入院し、仁誠会クリニック黒髪に転入。済生会では冷たい500mlのペットボトルを渡され3日間過ごしていましたので、黒髪に来た時の温かいお茶とおにぎりは、本当に大変ありがたかったです。

地震は落ち着いてきましたが、今も全壊した家に居なくてはならず、不安な日々を過ごしています。



もしも透析中に災害が起きたら…

Hさんの声(仁誠会クリニック大津)

2回の地震で家は傾き瓦が落ち、4日間は車中泊でした。当時は生活することが必死で仕事どころではないと、思っていました。食べるものには困らなかったけど、透析ができないかもしれないと思い、水はがぶ飲みしないように注意していました。そして自分の為だからしっかりしないといけないと思っていました。

病院からの変更の連絡は携帯電話にあり、スムーズでした。今後、透析中に災害が起きたらどうしたらいいのかわからないので不安があります。これからその時の対応も教えてもらえたらいいと思います。

4年前透析を導入し、今まで出来れば透析はしたくないと思っていました。

被災直後は透析の回数や時間に制限があり、いつも通りの透析ができなかったけれど、地震の後、ここで透析を受けられた時に初めてホッとした思いになりました。

この度は、当法人に対し早速丁寧なお見舞い支援物資と、励ましのお言葉並びにご尽力をいただくと共に、過分なるご配慮をいただき厚く御礼申し上げます。

仁誠会は今後とも信頼される地域に根ざした医療機関・福祉施設として、地域の医療、福祉サービスを支えてまいる所存でございます。引き続きご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。本来であれば、拝眉の上御礼を申し上げるべきところではありますが、先ずは本紙をもって厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

2016.4.14 熊本地震から

「心ひとつ」

仁誠会の理念は「心ひとつ」です。これは、赤とんぼ設立の時に仁誠会全体の理念として掲げ、以来私たちは、医療・介護の現場で患者さん・利用者さんとの「心ひとつ」、職員同士の「心ひとつ」、地域との「心ひとつ」を目指して、15年間やってきました。

今回の熊本地震に遭遇して、これまで「心ひとつ」を理念として築き上げてきたものがあつたからこそ出来た沢山のことがありました。しかし、想定を超える混乱の中で対応出来なかったこともありました。

熊本地震 その時、何が起ったのか、そして私たちは何を学び、私たちの目指す「心ひとつ」をさらに実現するためどうしていくのか。

それぞれの「その時」を振り返り、明るい未来のための糧としたいと思います。

一步一步元に戻れるように！

硯川 節子さん(赤とんぼ入所ご利用)

4月14日の前震。眠っていましたが、突然の揺れにただただびっくりしました。必死に頭を上にあげベッドの柵にしがみつきました。不安と恐怖に襲われましたが、幸い部屋のものも倒れたりせず、すぐに職員が安否確認にきてくれフロアに私たちを避難させてくれ安心しました。

子供たちのことも気になり心配しましたが、数日後に会いに来てくれ無事が確認できほっとしました。娘の職場が益城でしたので気になっていました。

震災から約2ヶ月が経とうとしています。まだ余震もあり、少しの揺れにも身体が反応してしまいますし、揺れている感覚に襲われます。しかし、利用者さん同士、また職員のやさしさやがんばりに励まされています。

今の自分には「がんばろう」や「がまだせ」などという言葉を力強く言うことはできません。しかし、「安心してください。すこしずつ今までどおりにもどっています。」と言えます。がんばりすぎず一步一步元に戻れるように！



「大丈夫ですよ」の職員さんの一声

朽木 玲子さん(赤とんぼ入所ご利用)

震災は急に来るからやっぱり怖いよね…

特に震災直後はとても怖かったけれど、「大丈夫ですよ」の職員さんの一言でだいぶ落ち着くことが出来ました。

震災後は皆(利用者)と一緒にフロアで過ごしました。怖いのは怖かったですけど、皆と一緒に過ごすことでだいぶ安心しました。

職員さんがばたついたり騒いでいると心細く不安に感じたかもしれませんが、とても落ち着いて行動されていたので安心しました。

停電や断水で、食事が2回になったこともありましたが、私は白川の大災害や戦時中にもっとつらい体験もしてきましたのでそんなに苦には感じませんでした。

でもまだふいに余震が来るから病気より怖いですね。
今回の震災で人が近くにいることの安心感や、一言の声かけの大切さを感じました。



不気味な活断層

池田 京子さん(赤とんぼ通所ご利用)



水の都を誇るこの美しい熊本に、未曾有の大地震。私達はその恐怖に慄いた。

4.14、更に4.16の夜は悪夢の如き震度7に見舞われた。初震の夜、家族6名、もうここには危険だと察知し長嶺小学校グラウンドに避難した。既に相当数の車がひしめき合っていた。その後も余震は絶え間なく続き、車中泊の不安な日々を数日過ごした。

日頃からお世話になっている赤とんぼさんも相当な被害だったようで、通所中止となり淋しい思いでしたが、全職員の方々が我が家の事は後回しにして全力で再開に向けて取組んでくださったお陰で、晴れて通所利用可能となり、楽しい日々が戻ってきた。

遠方からもボランティアのグループの方々が来所され私たちを慰めて下さった。ぐっと、あついものが込み上げて来て涙した。通所のプログラムも震災前の賑やかさに戻った。

私たちの楽園。赤とんぼへ通所が出来る幸せをひしひしと感じ、感謝の日々を送っている。

心あたたまるご支援
ありがとうございました。

医療法人社団 仁誠会 理事長 田尻 哲也
会長 田尻 宗誠



災害対策

災害多発の日本で、熊本でまさかの震度7を2回経験し、私たちも戸惑い、ライフラインの確認や混乱した情報の中、患者の皆さんにも多大なご迷惑をおかけしました。限られた時間・人・物の中で最大限に効果の得られる医療が提供できるようこれを機に、災害対策を見直し、平時の時から減災に向け取り組んでいきます。

仁誠会看護部長 吉本・仁誠会技士部長 宇並

震災を受けて、技士部の活動

仁誠会クリニックながみね 技士科長 山本 宗彦

最初に今回の震災により、亡くなられた方のご冥福を祈るとともに、今も尚この影響により避難所生活を余儀なくされておられる方へ心よりお見舞い申し上げます。震災以前の生活を戻すためには、まだまだ時間は掛かりそうですが、明るい未来を信じて生きるために、常に前向きに考え、行動していきたいと思っています。

さて、今回の震災をうけての臨床工学技士（以下、技士）の動きとして、いろいろありますが、透析を行うために最も必要な「水」について話をしたいと思います。

透析を行うには通常の飲み水として使用している水道水は使用できません。なぜなら、水道水には消毒を目的とした塩素がごくわずかですが、

混ぜています。この水道水は使用できません。なぜなら、水道水には消毒を目的とした塩素がごくわずかですが、



仁誠会クリニック光の森
3tの水を貯水タンクに補充

エコノミークラス症候群にご注意ください

仁誠会 看護部

災害時に起こる可能性は知っていても、身近に感じることが少ないエコノミークラス症候群。今回の事で、より多くの人たちが知ることになりました。災害時だけではなく、この病気を理解しておきましょう。そして、わずかな時間でもいいので、体を動かしましょう。

エコノミークラス症候群は、飛行機や車の中などで長時間同じ姿勢でいると足の血液の流れが悪くなつて血の塊ができてしまうと考えられるもので、中には、その塊が血管を通じて肺の動脈まで運ばれ、最悪の場合、血管がつまって亡くなることもあります。車の中だけでなく、避難所でも体を動かさずに座ってばかりいると発症するリスクが高まるとされています。「地震直後で車中泊が続く時期は、血栓ができやすく危険。長時間同じ姿勢をとらず、こまめな水分補給を心がけるとともに、ゆとりを持ったスペースを確保し、生活を少しでも日常に近づけることが大切だ」と言われています。足や足の指をこまめに動かしたり、1時間に一度は、かかとの上下運動を20〜30回程度して、エコノミークラス症候群対策をしていきましょう。



のまま使用してしまうと、身体の血球等が破壊されます。また、水道水の硬度成分により、透析液の濃度を適正に保てず軟水化する必要があります。このようにいろいろなフィルターを通して透析液が作成される「水」となるのです。

本題に戻りますが、技士の一番の動きとしては、「水の確保」です。皆様もご存知の通り、血液透析では大量の水を使用します。水の使用量を簡単に申しますと、1人当たり1時間で30ℓ、5時間透析で5倍の150ℓ使用します。当クリニックは1サイクルで73名同時に透析が可能ですが、73名だと1時間で2、190ℓ、5時間で10、950ℓ使用します。

地震発生後は、ながみねでは貯水槽や配管の破損もなく滴水状態だったため近隣施設の透析患者様も受け入れて透析を開始しました。しかしながら断水により水の確保が困難で透析時間の短縮や透析流量を落とすことで、何とか貯水槽の水でその日乗り切れました。自衛隊の給水車による水の供給を受けながら透析が始められる予定でしたが、渋滞による給水車の到着遅れ、給水量が限られていること等で開始時間の遅れや光の森での透析の運びとなりました。

「命」にかかわる食事の調整

仁誠会クリニックながみね 栄養科主任 赤塚 薫

災害時に食事が摂れないとエネルギー不足になります。すると体の筋肉が壊されて、毒素やカリウムが生じるため、尿毒症や高カリウム血症を引き起こし、命に関わる可能性があります。

透析が受けられないことも考えて、余分な水分や老廃物を溜め込まないよう、食事の調整が大切です。今回は特にカリウムに注目してみましょう。

カリウムを減らす食べ方のポイント

果物、生野菜はいつもの分量に減らす



バナナ、ドライフルーツは食べない



スナック菓子、チョコ、黒砂糖のお菓子や飴、ナッツ類、芋や芋菓子は避ける



飲み物はできるだけ水を選ぶ。
※コーヒー、ココア、牛乳、豆乳、野菜ジュースはカリウムが多いので注意

エネルギー不足とならないよう、ご飯、お粥、パン、ビスケットなどの主食を毎食食べるようにしましょう。

171災害伝言ダイヤルの活用を

今回の地震ではクリニックと患者さんとの連絡に苦労した点が問題点として挙げられます。今後は災害時、通信手段の一つとして171災害伝言ダイヤルを活用していきます。

災害時はクリニックからの情報を171災害伝言ダイヤルへ登録しますので、情報をとる二つの手段として是非活用ください。詳しくはスタッフへお尋ねください。

再生は171-2

録音は171-1



また、冒頭でも申しましたが、水道水はそのまま透析に使用できないため、特殊な機械（RO装置・逆浸透装置）を用います。いくつかのフィルターを使用しますが、写真がその一部です。写真右の白いものが新品ですが、汚れ具合が分かります。通常はこのフィルターは通常3から4ヶ月で交換していますが、震災後は10日程で交換しました。このフィルターの後にも、更に特殊なフィルターを用い、生菌が検出されないレベルまでの水を透析に用いていますので、患者さんの皆様はご安心ください。

最後に今回の地震を受け多くの患者様に十分な透析の提供が困難となり、大きな不安を抱かれたかと思います。われわれ技士としての課題も多くありましたが、この課題を解決するためにも、職員一丸となって、常に安心・安全な透析を提供できるよう精進していききたいと思います。



プレフィルター



仁誠会クリニックながみね
自衛隊の給水車から職員も一丸となってバケツリレーで貯水タンクへ

災害時の医療機関受診について

災害時、保険証を持たずに避難している等のため、保険医療機関等で保険証を提示できない場合には、保険証がなくても保険診療を受けることができます。※「1」氏名、「2」生年月日、「3」連絡先（電話番号）、「4」加入している医療保険者が分かる情報（被用者保険の場合は事業所名、国民健康保険の場合は住所及び組合名、後期高齢者医療制度の場合は住所が必要です）

被災された方が診療を受けた際の一部負担金について



医療機関など（熊本県以外の医療機関等も含む。）で診療を受ける際に、医療機関等の窓口で、次の1〜3に該当する旨を申告することで、一部負担金の支払いが猶予されます。

1. 住家の全半壊・全半壊又はこれに準ずる被災をした旨
2. 主たる生計維持者が死亡し又は重篤な傷病を負ったり、行方不明である旨
3. 主たる生計維持者が業務を休止・廃止した旨や失職して現在収入がない旨

※猶予の対象には条件があります。詳細は医療機関窓口で遠慮なくお尋ねください。

命守るお口のケア ～震災時の口腔ケア～



仁誠会クリニックながみね歯科 医師 田尻陽子

熊本地震後、熊本県内での肺炎による入院患者数が前年同期と比べて増加しているという報道がありました。通常、肺炎を発症する人は冬が多いのですが、この時期に増えたのは、地震後の断水により口腔ケアが十分にできず、長引く避難生活などで体力や抵抗力が低下した高齢者が、誤嚥性肺炎になってしまった可能性が考えられます。

口の中に常在する肺炎の原因菌は菌磨きなどの口腔ケアを行わないと、あつという間に増殖してしまい、特に飲み込みの機能が低下して唾液でも誤嚥するような高齢者は口の中の細菌が気管に入って引き起こす誤嚥性肺炎の危険性が高まります。誤嚥性肺炎は重症化すると命を脅かす恐れがあります。誤嚥性肺炎の予防は、とにかく口の中の細菌を増やさないことです。

しかし、地震直後の混乱した状況の中で、食事も

ろくにとっていない、水もないからといった理由で口腔ケアは必要ないと後回しにされてしまいがちです。食べる回数が減ると唾液の分泌も減り、唾液による自浄作用の低下から口腔内の細菌は増加してしまうのです。つまり、食べない時ほど口腔ケアが重要になってくるのです。

赤とんぼでは断水になってすぐ入所フロアのスタッフが歯科室に来て、大量の口腔ケア用のウエットティッシュを購入していき、水なしでもウエットティッシュによる拭き取りで可能な範囲の口腔ケアを実施していました。そんな赤とんぼスタッフの迅速な対応をととても頼もしく思いました。

このように災害時に水や歯ブラシがない場合は、ウエットティッシュやガーゼなどで歯や入れ歯を磨くだけでも十分です。洗口液でのうがいも効果的です。また、備蓄の水や歯ブラシがある場合は、コップ1／3の水で歯磨きは十分可能。歯磨き粉をつけずによくブラッシングし、よくうがいをする、1日1回、就寝前だけでも十分効果的です。災害時でも口腔ケアをお忘れなく！



震災を体験して

「熊本地震」かつてない震度7の地震を2回経験しました。

少しずつ日常を取り戻していますが、2ヶ月たった現在でも、避難されている方々も多く、私達も今でも不安と、余震との恐怖と闘っています。

しかし、前を向いて、施設の理念でもある「心ひとつ」でみんなで乗り越えていきます。

仁誠会介護部長 東

「食」の備蓄

～自分の為の備蓄を考える～



災害が起こるとライフライン（ガス・水道・電気）がストップし、通常の食事ができなくなるので手元に災害食を備蓄しておくことが必要です。

ステップ1

発災直後は水や熱源がないので、包装を開けてすぐ食べられるものが望ましい。

ステップ2

電気が回復するでしょう。飲料水の備蓄があればかなりの食品が役立ちます。無洗米を炊く、おかずの缶詰、レトルトカレー、カップ麺等。洗い物用の水はないので使い捨て食器、ラップがとても役立ちます。

ステップ3

ライフラインが期待通りに回復しない場合、ビタミン・ミネラルなどの微量栄養素や食物繊維が不足しがちです。普段の食事に近いものが強く求められ、食事への欲求が高まります。多様な食品を備蓄しておくことが望まれます。

備蓄は、水は1日2Lを目安に、パン・ビスケット、鯖さんま缶詰、みかん缶、羊羹など、無洗米、レトルトカレー等。野菜ジュース、豆乳もお勧めです。災害時は食欲も落ちるので自分好みの食品を備蓄する（味を事前に確認）。備蓄のリュックは、すぐに持ち出せるようにいつも居る場所において置く。

「動かない」状態が「動けない」状態をつくる

～『生活不活発病』について～

生活不活発病は、「動かない」状態が続くことにより、心身の機能が低下して「動けなくなることをいいます。特に持病をお持ちの方や高齢者の方は気をつける必要があります。

身体的な問題だけでなく、精神的な問題も生じてくる重大な問題です。

生活不活発病の症状としては、全身に影響するもの、身体の一部に起こるもの、精神や神経の働きに起こるものといろんな要因から発生します。重症になる前に生活不活発病チェックリストで早期発見につなげることが大切です。

また、地震後には「することがない」「周りに遠慮してしまう」「環境の変化に適応できない」などが挙げられます。予防する為には、1日の活動量をあげていくことが大切です。

地震発生から数ヶ月が経過しています。今は初期段階であった「生命を維持する」というよりも、「活発な生活づくり」が必要となるのです。そこで、積極的に新しい役割・生きがいを見つけていくことが大切です。ただ、体を動かすというよりも目的を持って楽しく散歩や家事や趣味に取り組んでいただけると気分転換になります。身体的にも活発化することができま



「前震」 夜勤の時受けて

入所科3階介護士 服部 律子

4月14日21時26分頃、前震が来た時私は夜勤をしていました。利用者さんは全員休まれており、地震で転倒、事故がなかったのは幸いです。

夜勤職員3人は、大きな揺れ、鳴り響く火災報知機の音、不安になられた利用者さんの安否確認、安全であることの声かけ、何もかもが初めてで、地震対応に必死でした。

施設を揺らす余震は続き、利用者さんを食堂の中央フロアに誘導していると、赤とんぼに応援の職員が駆けつけて来てくれました。不安だった3人に、感謝と安堵の気持ちが出たことを今も忘れずに覚えています。お陰で速やかに利用者の方全員を中央フロアに誘導でき、安全に休むことのできる環境が整えられました。

壁にはヒビが入り、大きな棚がなぎ倒されている状況を見て不安でしたが、声をかけ合い、応援の職員が来てくれたことで不安もなくなり、この大きな「熊本地震」の困難を利用者さんと共に乗り越えることができました。この経験は辛かったけれども、これからの災害時の対応に活かせると思います。



「震災」 部署の枠を越えて

通所科介護士 田口誠治

地震の後、赤とんぼ通所が利用休止になり、通所スタッフは入所業務の手伝いに回りました。

入所利用者さんのケアをする中で気になったのは会話や笑顔が少なくなってきたりしている事でした。体にも疲れが出て、ストレスも溜まってきている状況でした。

そこで、何か自分出来ることはないかと考え、歌を唄えば少しは気晴らしになるかと思い上司に提案。昔の流行り歌や唱歌などをギターに合わせて唄いました。大声で唄う

方、小声で「さむさむ方、静かに耳を傾ける方など、楽しんでいるようでした。『子供の頃の歌を聴けて良かった』『今度はひばりちゃんをやつて』などのリクエストも聴かれました。

一日一回、続けていったところ、利用者さんの表情が少しずつですが和らいでいったように思います。

震災で環境が変わり、家族の事も心配し体力も落ちてきている時こそ、少しの時間でも楽しく過ごす事は大切です。何もなくても一日は過ごせますが、ワクワクする時間が少しでもあると、笑顔が生まれるという事を実感しました。



避難所で精一杯体操を行いました

リハ科運動指導員 光中 充

熊本地震で避難所となつている長嶺小、中学校へ出向き体操教室を行いました。目的は「エコノミクス症候群」「生活不活発病」の予防・改善です。初めて体育館に入った時、マットや段ボールを敷いて狭いスペースで寝ている方が体育館全体におられて、このようなプライベットの空間での避難生活は辛いだろうなと感じました。そんな方々に、自分達の体操で少しでも元氣になつてもらえたらと思い、精一杯体操を行いました。

体操に参加して頂くために全員に声をかけてまわり、初日は参加者が少なかつたけれど2回3回と続けていくうちに徐々に増え、最終的には体育館全体の方々が、ご自分で体操できるスタイル（椅子に座つてあるいはその場に立つて）で参加して下さいました。参加者の方から「元氣が出る、気持ちよかつた」という声を多くもらい、元氣を与えられたことが、実際に自分達自身が元氣を頂き、地震に負けず頑張ろうと思えました。



地域の元気をサポートします

赤とんぼでは、誰もが元気で快適に過ごせる地域づくりを目指しています。近隣の老人会への健康講話・出前フィットネスなどの出前講座をはじめ、学校や施設からの施設見学会やボランティアの受入など、介護保険制度の仕組み、介護予防活動についての啓蒙活動を推進しています。更に認知症について正しく理解していただくため、地域で認知症の方をサポートする体制づくりにも積極的に取り組んでおります。

赤とんぼで定期的に開催している地域の方々への活動をご紹介します

オレンジカフェ赤とんぼ ●毎月第3日曜日 10:00～12:00 ●赤とんぼ1階

昨年10月からスタートした「オレンジカフェ赤とんぼ」も半年が経過しました。認知症の人やそのご家族、地域のサポーターの方たちが訪れてくださって、毎回7、8名でのゆったりとした楽しい時間をすごすことができています。認知症になっても安心して生活できる街づくりの一端を担いつつ、活動を継続します。



参加費
300円

お飲み物
お菓子付き

健康講話 ●開催月の第1土曜日 13:30～14:30 ●赤とんぼ5階ホール

地域の方の健康維持・増進を目的に、健康にかかわる事柄で皆様の興味のあるものや、その時のトピックスをテーマにして、その内容を正しく理解して頂けるように、楽しくわかりやすく伝えていきたいと考えています。



「健康講話」テーマ(予定)

- 8月 骨粗鬆症＋骨密度測定と体操
- 10月 加齢による筋力低下について
- 12月 感染対策
- 2月 寒い時期の転倒予防

参加費
無 料

ボランティア講習会 ●開催月の第1土曜日 13:30～14:30 ●赤とんぼ5階ホール

熊本は認知症サポーター受講率全国No.1のすばらしい県です。でも、「オレンジリングはもらったけど何をしたらいいの?」という声も多く聞かれました。実際に認知症の方々との接し方を知った上で、ボランティアの現場でサポートいただけるように講習会を開催しています。介護の現場のスタッフが実践的に講習いたします。

「ボランティア講習会」テーマ(予定)

- 9月 「福祉用具の正しい使い方と介助の仕方」
- 11月 「利用者さんとのコミュニケーションの取り方」
- 1月 「実技(赤とんぼにて利用者さんとの交流)」

参加費
無 料

赤とんぼフィットネスクラブ … 赤とんぼ1階リハビリコーナー 月～土(金除く)15:00～ 参加費:500円

出張赤とんぼフィットネスクラブ … 地域へ出かけます 参加費:500円(現在月出・黒髪地区にて開催中)

地域活動へのお問い合わせ:磯崎(赤とんぼ)TEL:096-331-3737・甲斐(赤とんぼ長嶺)TEL:096-368-8800

医療法人社団仁誠会 相談窓口 (透析・介護のことなら何でもお気軽にご相談下さい)

■仁誠会クリニック黒髪

〒860-0862 熊本市中央区黒髪6-29-37
TEL:096-345-6533 FAX:096-346-3388

■仁誠会クリニック大津

〒869-1102 熊本県菊池郡菊陽町原水2973
TEL:096-232-9595 FAX:096-232-9888

■仁誠会クリニック新屋敷

〒862-0975 熊本市中央区新屋敷1-14-2
TEL:096-211-5151 FAX:096-211-5057

■仁誠会クリニックながみね

〒861-8043 熊本市東区戸島西2-3-10
TEL:096-331-2211 FAX:096-360-4841

■仁誠会クリニック光の森

〒869-1108 熊本県菊池郡菊陽町光の森3-1-1
TEL:096-285-3466 FAX:096-285-3488

■介護老人保健施設 ケアセンター赤とんぼ

〒861-8043 熊本市東区戸島西2-3-10
TEL:096-331-3737 FAX:096-360-7103

■赤とんぼ 居宅介護支援事業所

TEL:096-331-3811 FAX:096-360-7103

■赤とんぼ 訪問介護事業所

TEL:096-331-8879 FAX:096-360-7103

■通所リハビリテーション 赤とんぼ黒髪

〒860-0862 熊本市中央区黒髪6-29-37
TEL:096-346-3535 FAX:096-346-3537

■有料老人ホーム 赤とんぼ黒髪

TEL:096-346-3939 FAX:096-346-3538

■有料老人ホーム 赤とんぼ長嶺

〒861-8039 熊本市東区長嶺南6丁目25-97
TEL:096-368-8800 FAX:096-368-1188

■小規模多機能ホーム 赤とんぼ長嶺

TEL:096-368-8885 FAX:096-368-1155

■仁誠会クリニックながみね

訪問リハビリテーション事業所

〒861-8043 熊本市東区戸島西2丁目3番10号
TEL:096-331-2211

●個人情報保護について●

仁誠会では、当施設が保有している患者さん、その他関係者の個人情報に関して、関連法令・他法令を遵守し、個人情報の保護に取り組んでいます。個人情報は、当法人からの医療や介護サービスに関わる情報のご案内以外、他の目的には使用いたしません。

仁誠会窓口メールアドレス
jinseikai-madoguchi@jinseikai.or.jp

仁誠会のホームページが
リニューアルしました!

ホームページ 仁誠会 検索